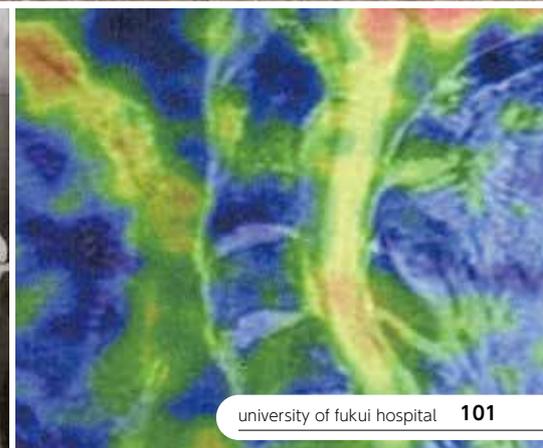
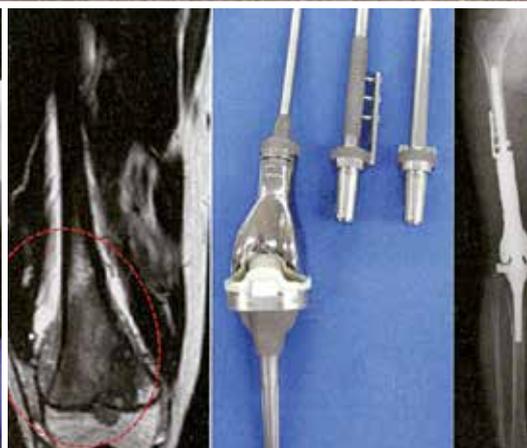
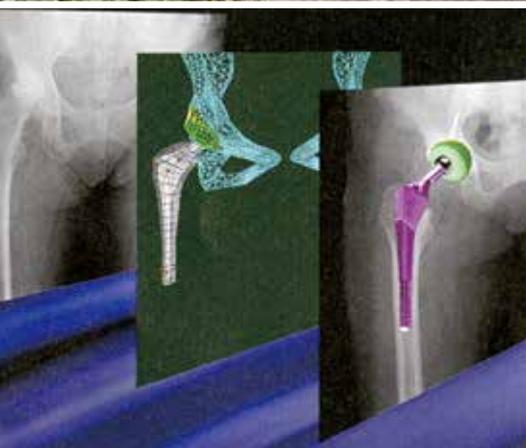


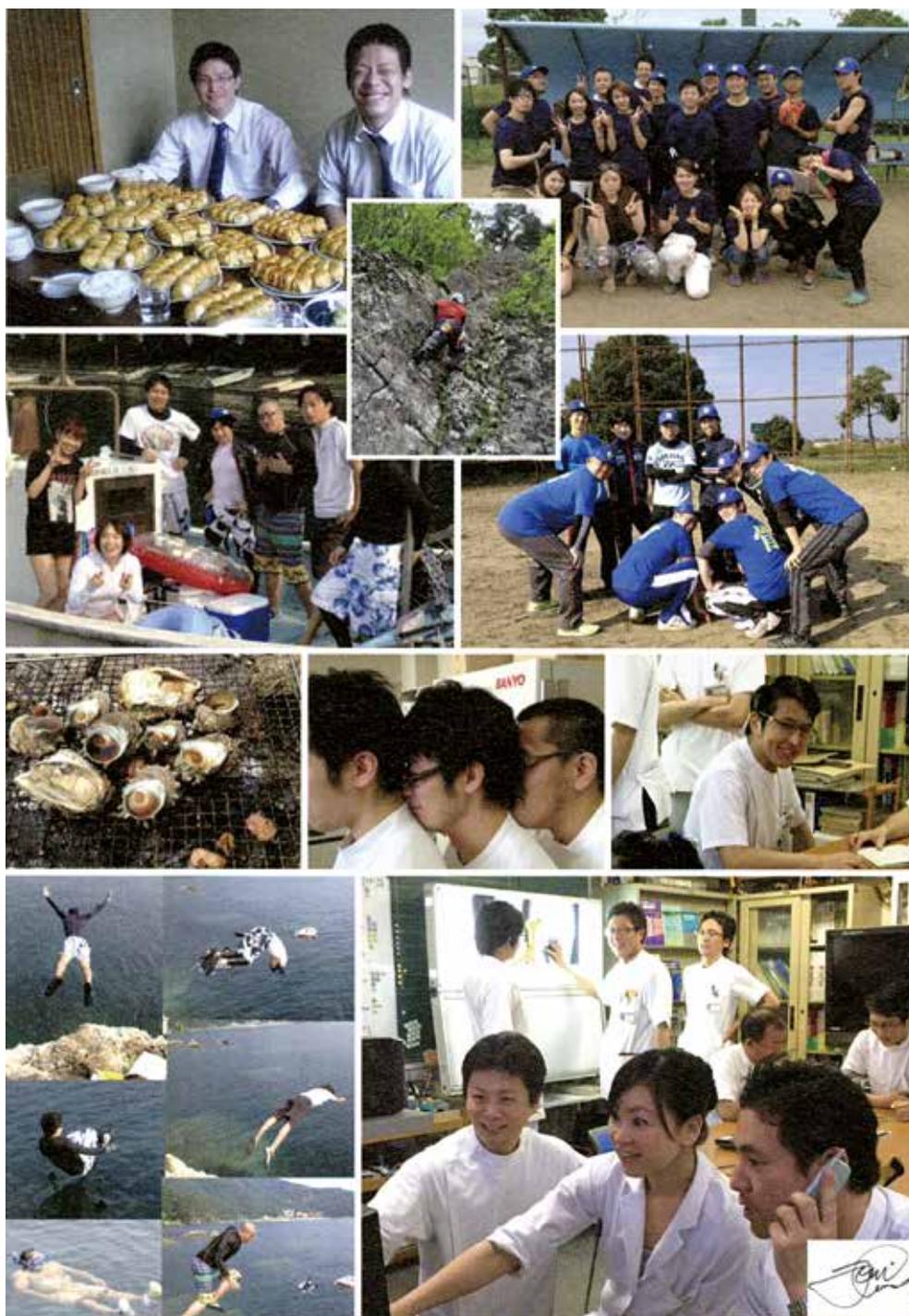
15

感覚・皮膚・運動部門

整形外科



整形外科医になろう



- 骨・軟部腫瘍、関節疾患、外傷、スポーツ整形、脊椎・脊髄疾患、関節リウマチ、小児整形外科、リハビリテーション医学など整形外科学は広範囲で症例多数
- 国内での地域医療はもちろん、開発途上国での国際医学教育支援も可能
- とにかく明るい医局です

15 整形外科

研修統括者

松峯 昭彦
 出身大学 福井医科大学（昭和61年卒）
 専門分野 骨・軟部腫瘍

教室の内容と特色

当診療科は骨・軟部腫瘍、骨・関節疾患、脊椎・脊髄疾患、骨盤外傷や脊髄損傷などの重度外傷、リウマチ性疾患、スポーツ外傷、小児整形外科疾患、骨粗鬆症などの骨代謝疾患、手の外科、脊椎・四肢外傷、リハビリテーション医療を含む整形外科領域のあらゆる疾患に対応し、専門的知識、高度な技術と深い経験を駆使して高水準の治療を行っています。また、疾患の治療のみにとどまらず、社会復帰に至るまでのプロセスを責任を持って行うことを基本理念としています。外来診療は全日制とし月・水・金曜日には年間で1000件近い手術を行っています。多発外傷、骨盤外傷、脊髄損傷などの緊急性の高い症例に対しては24時間体制で救急処置および手術を行っています。

骨・軟部腫瘍研究グループは良性・悪性を問わずあらゆる骨・軟部腫瘍に迅速に対応する体制を整えています。CT、MRI、PET-CTなどの最新の画像診断を駆使しつつ病理医とも連携・定期的なカンファレンスを行い、正確な診断・治療を行っています。新たな腫瘍専用人工関節開発も行っており、臨床的・基礎的研究を通して培った豊富な知識と高度かつ多彩な技術で確実な腫瘍の切除と最大限の機能再建を行っています。骨・軟部腫瘍専門医が高いレベルの医療を提供する国内でも数少ない施設の一つです。

脊椎・脊髄研究グループは脊椎・脊髄疾患全般にわたる基礎研究に関連した診療、神経疾患のリハビリテーション医療を行っています。特に脊柱靭帯骨化症に対しては、平成5年より厚生省特定疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班に所属し（分担研究主任：中嶋）、「脊髄の可塑性と脊髄機能」に関する臨床的並びに多施設疫学共同研究、基礎的研究を行っています。その研究内容は国内外の学会を常にリードしており、わが国を代表する研究機関の一つになっています。また、PETを用いた最先端の画像診断や脊髄損傷・脊髄症の遺伝子治療に向けての基礎的研究を行っており、近い将来この遺伝子治療の臨床試験を開始すべく研究を進めています。

関節疾患研究グループでは、日本人に適合する人工股関節の開発・研究を継続的に行っています。完成した人工股関節は臨床応用され、非常に良好な臨床成績をおさめており、内外から高く評価されています。このようなシステムを開発した大学は少なく、極めてオリジナリティーに富むものと考えています。軟骨再生や歩行シミュレーションによる関節疾患の病態や治療に関する研究を鋭意進めています。股関節・膝関節ではコンピュータ・ナビゲーションシステムを導入し、正確で安全性の高い手術を提供しています。その他、肩・肘・足関節・指関節の人工関節置換術も行っています。さらに各種の骨切り術・関節形成術やスポーツ選手の肩腱板、膝半月板・靭帯、肘関節手術など関節鏡視下手術にも力を入れており、良好な臨床成績をおさめています。当診療科では海外の大学との共同研究、ミャンマーやアフリカでの国際医療支援も積極的に行っています。ウガンダ・マケレレ大学とのテレビカンファレンスも定期的に行っています。整形外科疾患は将来どの科に進むかにかかわらず、日常診療で必ず遭遇します。整形外科疾患の診断と治療の基礎を学ぶため、数カ月の間、整形外科を選択することをお勧めします。『いっしょに楽しく学びましょう！』

教授：松峯 昭彦（骨・軟部腫瘍）
 准教授：中嶋 秀明（脊椎脊髄外科、脊椎外傷）
 講師：田中 太晶（骨・軟部腫瘍）
 谷 哲郎（関節外科）

手術部・准教授：小久保安朗（関節外科・骨盤外傷・骨関節感染症）
 助教：5名（脊椎脊髄外科、関節外科、骨軟部腫瘍、外傷、骨代謝性疾患、リハビリテーション）
 医員：7名
 大学院生：6名
 研究生：0名
 留学生：0名

教室員募集
について

申し込み締め切り：病院の締め切りに準じます。

選考方法：面接

説明会の日時、場所など：希望者には適宜連絡します。連絡先を御参照下さい。

教室での環境について：自由にのびのびと仕事ができる環境です。各自の求めるライフワークバランスを実現し、高度な技術を習得するための環境が整っています。女性医師に対しても、あらゆる面でサポートを行います。より高度な研究・研修を望む教室員には、国内・海外での研修および留学の支援を行っています。

研修
プログラム

整形外科臨床研修カリキュラム（卒後2年）

〔整形外科短期研修〕 研修期間：1～3カ月の到達目標

〔整形外科長期研修〕 研修期間：4～8カ月の到達目標

I 救急医療	一般目標	運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する
	行動目標	1. 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。
		2. 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
		3. 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる。
		4. 脊髄損傷の症状を述べることができる。
		5. 多発外傷の重傷度を判断できる。
		6. 多発外傷において優先検査順位を判断できる。
		7. 開放骨折を診断でき、その重傷度を判断できる。
		8. 神経・血管・筋腱の損傷を診断できる。
		9. 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。
		10. 骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。
II 慢性疾患	一般目標	適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。
	行動目標	1. 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
		2. 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX線、MRI、造影像の解釈ができる。
		3. 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。
		4. 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
		5. 神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。
		6. 関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。
		7. 理学療法処方の理解ができる。
		8. 後療法の重要性を理解し適切に処方できる。
		9. 一本杖、コルセット処方が適切にできる。
		10. 病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。
		11. リハビリテーション・在宅医療・社会復帰などの諸問題を他の専門家、コメディカル、社会福祉士と検討できる。

Ⅲ 基本手技	一般目標	運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を修得する。
	行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な身体計測（ROM、MMT、四肢長、四肢周径）ができる。 2. 疾患に適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる。 （身体部位の正式な名称がいえる） 3. 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。 4. 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。 5. 一般的な外傷の診断、応急処置ができる。 <ol style="list-style-type: none"> i) 成人の四肢の骨折、脱臼 ii) 小児の外傷、骨折肘内障、若木骨折、骨端線離開、上腕骨顆上骨折など iii) 靭帯損傷（膝、足関節） iv) 神経・血管・筋腱損傷 v) 脊椎・脊髄外傷の治療上の基本的知識の修得 vi) 開放骨折の治療原則の理解 6. 免荷療法、理学療法の指示ができる。 7. 清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺・注入、小手術、直達牽引ができる。 8. 手術の必要性、概要、侵襲性について患者に説明し、うまくコミュニケーションをとることができる。
Ⅳ 医療記録	一般目標	運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。
	行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。 主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー内服薬、治療歴 2. 運動器疾患の身体所見が記載できる。 脚長、筋萎縮、変形（脊椎、関節、先天異常）、ROM、MMT反射、感覚、歩容、ADL 3. 検査結果の記載ができる。 画像（X線像、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム）血液生化学、尿、関節液、病理組織 4. 症状、経過の記載ができる。 5. 検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容を記載できる。 6. 紹介状、依頼状を適切に書くことができる。 7. リハビリテーション、義肢、装具の処方、記録ができる。 8. 診断書の種類と内容が理解できる。
<p style="text-align: center;"> 5 よくできた 4 できた 3 ふつう 2 あまりできなかった 1 できなかった の5段階評価を行う </p>		

[整形外科専攻医研修（卒後3～6年）]

専門医研修終了後、整形外科専門医を目指す医師の研修

新専門研修プログラムに沿って研修を行います。このプログラムでは、異なる61種以上の疾患を受け持ち、160例以上の手術経験および80例以上の執刀が必要で、高度な専門知識、専門技能を習得すると共に、リサーチマインドの養成、学術活動における研修、地域医療に関する研修も併せて行います。質の高い研修ができるよう、プログラム管理委員会を開催し、専攻医の評価、プログラムの改善を行い、指導医の研修にも力を入れています。

関連病院等

公立丹南病院	国立病院機構敦賀医療センター	杉田玄白記念公立小浜病院
若狭高浜病院	織田病院	上中診療所
福井厚生病院	木村病院（あわら）	木村病院（鯖江）
中村病院	泉ヶ丘病院	市立伊丹病院（兵庫県）
坂井市立三国病院		

認定医・
指導医の
取得

氏名	職名	認定医・指導医等の名称
松峯 昭彦	教授	◎/☆/●
中嶋 秀明	准教授	◎/○/△/□/■
田中 太晶	講師	◎/☆
谷 哲郎	講師	◎
小久保安朗	手術部・准教授	◎/△/□

- ◎：日本整形外科学会 専門医 ☆：日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
 ●：日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍医 △：日本リウマチ学会 指導医・専門医
 ○：日本脊椎脊髄病学会 指導医・専門医 □：日本リハビリテーション医学会 認定医・専門医
 ■：日本体育協会 公認スポーツドクター

施設認定 日本整形外科学会専門医制度研修施設
 日本リウマチ学会教育施設 新リウマチ専門研修認定教育施設
 日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
 日本脊椎脊髄病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設
 日本リハビリテーション医学会研修施設
 Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 参加施設

指導医からの
メッセージ

人が人らしく活動するためには、運動器（神経、腱、筋肉、靭帯、関節、骨・軟骨など）のスムーズな運動が不可欠です。これら運動器の一つでも障害を受けると、十分な活動ができなくなるばかりか、生命予後にまで大きな影響を与えることが近年の研究で判明しています。

整形外科は、このような人にとって極めて重要な運動器全般を扱う診療科です。整形外科は、単に体のパーツを修繕するための診療科ではありません。超高齢者は複数の箇所に運動器疾患を抱えています。スポーツ選手も複数箇所に故障を抱えています。福井大学の整形外科は、整形外科専門分野や体の各パーツのスペシャリストを取りそろえていますが、チームワークを駆使して運動器全般をトータルに診療し、社会復帰、スポーツ復帰させることを目指しています。

将来どの診療科に進んだとしても、多くの患者さんは運動器疾患を抱えています。頭の柔軟な初期研修医の時期に、運動器疾患の基本的診察方法、応急処置などを学ぶことは、将来かならず役に立つとお約束できます。整形外科専門医を目指すかどうかに関わらず大歓迎です！楽しくリラックスして整形外科基本手技を習得しましょう！

お問い合わせ先

福井大学学術研究院医学系部門医学領域器官制御医学講座整形外科
 Department of Orthopaedics and Rehabilitation Medicine, Unit of Surgery, Division of Medicine,
 Faculty of Medical Sciences, University of Fukui
 〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
 TEL：0776-61-8383 FAX：0776-61-8125
 講座ホームページ URL：http://www-n.med.u-fukui.ac.jp/laboratory/orthopaedics/
 診療科ホームページ URL：https://www.hosp.u-fukui.ac.jp/department/shaping/
 Email：seikei@ml.u-fukui.ac.jp
 講座ホームページには教室年報があります。御参照下さい。